

# せんしゅん

<http://www.senshunkai.or.jp/>

千春会

検索

歳時記  
1

地元のみなさんとともに

## 「力」みなぎる千春会!

4月1日  
新人職員 入職

今春(4/1)、26名が千春会に入職しました。新人あり、経験者ありのメンバーですが、みんな「やる気」と「活気」に満ちあふれています。新しいパワーが加わって、さらに充実した「医療・看護・介護の提供」を目指し、地域に貢献してまいります。新しい笑顔をどうぞよろしくお願ひいたします。



歳時記  
2

## 技術の向上が「命」を守る

2月16日～21日  
救命救急士研修

乙訓消防本部から竹上 宏さんが「薬剤投与」の研修にこられました。誠実な笑顔の竹上さんからは「救急対応、救急搬送できる地元の病院で消化器内科医が複数名おられ、透析センターがあるのもありがたいです。直近搬送という時代ではないので、病院の状況を知ることは適切な搬送にかかせません。千春会は本当に充実しておられるので、驚くと同時に、ありがたいと思っています。」との感想をいただきました。(研修受け入れを通じて、千春会もより充実していくのを感じます。)



歳時記  
3

## 地場の新鮮野菜で季節感アップ

千春会では、JA 京都中央乙訓支店を介して、地元野菜を病院・介護施設のメニューに取り入れていくことにいたしました。安心・安全の地場野菜で、季節感と旬のおいしさを皆さんにお届けしたいと思います。今回は春の香りいっぱいの「菜の花ごはん」(4/9)「若竹煮」(4/23)を食卓に用意しました。今後も、季節感あふれる地場野菜を取り入れ、栄養科で心をこめて調理していきます。次回は夏野菜の予定です。お楽しみに!



ご報告

## さらに充実の医療 新任常勤医師 紹介

4月から、外科・整形外科に児玉芳重医師が常勤医師として着任いたしました。千春会病院にまた、1名。落ち着いた笑顔が素敵なドクターが増えました。

ごあいさつ

小生、この度(平成21年4月)千春会の整形外科医として勤務することとなりました。

今年ほど、桜花のきれいな年も珍しく思います。先日介護施設見学の道すがら、長岡京市内の桜、向日市の向日神社の満開の桜などを見せていただき感謝しております。

今年の桜のように、潔く散らずに老骨に鞭打って、日本人の口癖ではありますが「とにかく頑張ってみよう」と思う所存です。

近年、整形外科の医学的進歩は目を見張る感がありますが、診療の原則は何ら変わることはないと考えております。しばらく、整形外科医の空席が続いたとの事ですが、今後は、整形外科とリハビリテーションは共に協同して、患者さんの社会復帰に協力したいと考えております。

ともかくにも一日も早く、明るい印象の病院に溶け込みたいと思います。

よろしくお願ひいたします。



外科・整形外科 児玉 芳重

<略歴>  
昭和45年 京都府立医科大学卒業  
昭和51年 京都通信病院 整形外科部長

昭和55年 長浜赤十字病院 整形外科部長

昭和60年 児玉整形外科院長 理事長

平成16年 松ヶ崎記念病院院長 浜田会洛北病院副院長

<資格>  
日本整形外科学会 整形外科専門医

診察日: 火・水・土曜日 9:00~12:30  
火曜日 18:00~20:00

## 編集後記

今号の表紙は、長岡京市の天然記念物「キリシマツツジ」。古の「朱」に彩られ、鮮やかに咲き誇るさまは圧巻です(4月末~5月)。今、まさにツボミが満開を待つ風情…。

千春会も、開花を待つツボミのごとく、いよいよ2つの大きな事業にとりかかります。地元貢献すべく、足元をしっかりと固め、見事な花を咲かせたいと存じます。

130年の樹齢を重ね、地元の方々に愛でられてきた「キリシマツツジ」のように、しっかりと地元根づいた「良質な医療・看護・介護」を提供してまいります。

控え目な「朱」のツボミが、燃えるような色に開花し「人の心」を打つように、千春会も「人の心」を打つ存在であり続けたいと思うこの頃です…。(弘)



満開を待つ長岡京市天然記念物「キリシマツツジ」(樹齢130年推定)

## 患者さまの権利と義務

当院では、次に掲げる患者さまの権利を尊重します。

- 1 患者さまは誰でも、良質な医療と良質な看護を公平に受ける権利があります。
- 2 患者さまは、医療の内容について納得できるまで十分な説明を受ける権利があります(インフォームドコンセント)。
- 3 患者さまは、他の医療機関の医療者に意見を求める権利があります(セカンドオピニオン)。
- 4 患者さまは、医師から説明を受けた治療方法など自らの意思で自由に選択し決定する権利があります。
- 5 患者さまは、ご自分の診療録など診療情報の開示を求める権利があります。
- 6 患者さまは、個人の情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

また良質な医療と看護を公平に受けていただくために、患者さまに次の義務をお願いしております。

- 1 患者さまご自身の健康に関する情報を、できるだけ正確にご提供ください。
- 2 十分理解できるまで質問していただき、納得した上で治療をお受けください。
- 3 患者さまおよびご家族の方々は、他の患者さまの治療や職員による医療提供の支障にならないように協力する義務があります。



日本医療機能評価機構認定病院

### 千春会病院

〒617-0826 京都府長岡京市開田2丁目14-26  
TEL. (075)954-2175 FAX. (075)955-4615

## 理念 (3つの使命)

- 1 患者・利用者の自立を支援し、良質な医療・看護・介護を提供する。
- 2 仕事に誇りと責任を持ち、社会人としての向上を目指す。
- 3 事業の充実により、住民の健康増進と地域社会の発展に寄与する。

医療法人社団 千春会

# 今、芽ぶきの時を迎えて 新規事業 着手のご報告



理事長 菊地 孝三

薫風さわやかに吹き渡る、清々しい季節になりました。千春会にも多くの新入職員が入職し、法人全体が新しい力に満ち溢れています。

この度、千春会は、かねてより構想していた「介護老人保健施設」を長岡京市内に設立することとなりました。現在、平成22年の竣工を目指し、基本的な計画・設計を進めております。

この「介護老人保健施設」は、入所定員100名の他、ショートステイ20名・デイケア200名、さらに乙訓地域では初の全室個室を予定しており、京都府下でも大規模な施設になると思われます。「介護老人保健施設」は「医療と介護」、「病院と自宅」を結ぶ中間的位置付けとして、在宅復帰支援という本来の役割を果たせるようにしなければなりません。退院された方や介護が必要な方が「住み慣れた自宅で快適に暮らしていただくこと」を第一義に、リハビリの中核施設としての機能を果たすため、作業療法士(OT)・理学療法士(PT)・言語聴覚士(ST)など多数のセラピストを配置し、管理栄養士・歯科衛生士なども関わり、身体や言語機能の向上を目指すだけでなく、口腔ケアや栄養管理なども含めた多角的な視点によるチームサポートを通じて「在宅復帰支援」を行ってまいります。

また、酸素吸入を必要とされる方、胃ろう造設されている方など、医療的処置が必要な方々の受け入れにも十分に対応し、家庭への復帰を目指すための場としてはもちろん、在宅で身体の機能が衰えた場合には再び入所し、訓練していただける場として、いつでもサポートできる施設にしたいと考えております。

さらに、病院を退院した後はもちろん、介護施設退所後も、安心して自宅で過ごしていただけるよう、地域のかかりつけ医院とも連携を密にし、訪問診療・訪問看護によるサポートを含め、法人として万全の体制を整えてまいります。

千春会ではこれまでに、設備においては病院の建て替えをはじめとした医療設備の拡充、医療においては、医師の充実や手厚い看護体制の確立などに積極的に取り組んでまいりました。介護においてもデイケア・デイサービスなどの介護事業所を逐次開設ならびに運営し、さらに関連法人では「老人ホームわらく」設立など、様々な形で「良質な医療・看護・介護の提供」を目指して尽力しております。

依然として厳しい状況の医療・介護業界ではありますが、今春は介護報酬引き上げをはじめとして、各種の補助金・交付金の給付等が予定されるなどの動きもあり、政府の施策にも「潮目の変化」が感じられるようになりました。

このように刻々と変化していく時流ではありますが、千春会は、地域に貢献すべく、理念に基づき日々努力を重ねております。この「介護老人保健施設」や、さらには向日市に開設を計画しております「介護複合施設」を通じ、法人理念のもと、全職員が心をつなげてさらに地域に貢献してまいりたいと存じます。

今後の展開を見守っていただきますよう、新しい芽ぶきにふさわしい新規事業の着手をここにご報告させていただきます。

より一層の皆さまのご協力・ご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 「褥瘡(じょくそう)」について



外科医長 外科・形成外科  
筒井 哲也 先生

「褥瘡」とは「外からの力が一定時間加わり続け、軟部組織(背中・おしり・かかと等)への血流が停止することで、組織に壊死が生じた状態」を言います。寝たきりの方の腰部に生じるのが代表例で、一般には「床ずれ」とも呼ばれています。

高齢化社会が急速に進行しているわが国では、身体の不自由な方、栄養の十分でない方も急増しており、医学の進歩とは裏腹に褥瘡患者数は増加しています。

「褥瘡」の発生要因としては活動性(寝返りがうてるかどうか)、栄養状態、個人の状態(病気の重症度、骨が出っ張っているか、関節拘縮はないか等)など種々の因子が複雑に絡み合っています。些細なことがきっかけで容易に発生しますが、一度出来てしまうとなかなか治らないだけに、発生を予防することが重要となります。

当院では入院時、「褥瘡」の有無に関わらず、全ての患者さんを対象として、その危険因子を分析し、その結果から体位変換の頻度を決めたり、マットレスの種類などを考慮しています。

入院中の治療に関しては「褥瘡対策チーム」(医師・看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士などで構成)の指示による処置が中心です。「褥瘡対策チーム」では定期的に病棟回診を行い、「褥瘡」の進行度に合った適切な治療指針を示します。

やがて、もともとの病気の治療が一区切りついた状態となれば退院ですが、病院を退院しても、介護施設を退所しても、訪問看護師とタイアップして在宅でも褥瘡を看るこの出来る体制にしています。

### 完治&院内発生ゼロを目指し 「褥瘡」に挑む、エキスパートチーム

### 褥瘡対策チーム

当院では、一般に「床ずれ」といわれる「褥瘡」の予防・完治などに対応するため、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士ら、各分野のエキスパートで「褥瘡対策チーム」を編成しています。このチームで週一度病棟回診を行い、回診記録を経過表に記し、プライバシーに配慮した上でカメラに記録します。評価は、日本の多くの医療機関で採用されている日本褥瘡学会基準の「DESIGN分類」に基づいて行っています。

また、回診の際には、「ガイドライン(治療規範)」に沿った適切な処置方法を指示し、難治症例の場合は随時検討会を行い褥瘡治療の対策を講じています。

チームは他にも院内スタッフのスキルアップを目的として、褥瘡の一般的な治療方針や分類法、ガイドラインの解説等をテーマとした院内講習会を年3~4回開催しています。

毎週火曜日の午後、一眼レフのデジカメを持って回診用カートを押している集団を見れば、それが千春会病院の「褥瘡対策チーム」です。



居宅介護支援事業所	デイケアセンター
居宅介護支援事業所上植野	デイサービスセンター友岡
訪問介護センター開田	デイサービスセンター滝ノ町
訪問介護センター上植野	デイサービスセンター上植野
訪問介護センターみなせ	デイサービスセンター風車
	ショートステイ上植野

**ここに響く介護があります**  
**介護部門からのお知らせ**  
 千春会では、介護の必要な方に適したさまざまな介護サービスを提供しております。お気軽にご相談ください。  
 ホームヘルプ事業部 フリーダイヤル 0120-21-8599

**検査のお話①**  
**メタボリックシンドロームと検査**



検査科主任  
 中川臨床検査技師

テレビ番組や健康診断などでメタボリックシンドロームという言葉が耳にする機会が増え、太ったお腹を指して「オレ、メタボやねん!」と、日常会話でもメタボという言葉が使われるようになりました。

メタボリックを日本語にあおすと「代謝性」という言葉になります。シンドロームは「症候群」。合わせて代謝性症候群つまり、栄養素が体内で分解されたり合成されたりする過程で、「血圧が高い」「尿に糖が出る」「血糖値が高い」「肥満している」などの複数のサインが存在する病気が、メタボリックシンドロームとよばれるようになります。

そのうち、メタボリックシンドロームは病気の手前の状態ではなく、日本を含めて世界的に通用する標準病名（ICD-10）にも正式に登録された、れっきとした病気です。症状が現れにくいことも特徴ですが、長い間高血圧や血糖値の高い状態が続くと、動脈硬化をきたし、その場所が心臓の血管なら「心筋梗塞」、脳なら「脳梗塞・脳出血」、腎臓なら「腎硬化症（腎不全から透析に繋がります）」、足なら「ASO（閉塞性動脈硬化症）」、目の「眼底出血」などをひきおこします。

どれも命や生活に関わる重大な病気ばかりです。動脈硬化は早期発見で生活改善や治療が望ましく、進行状態は検査で簡単に調べられます。

今回はその検査項目のひとつ、眼底カメラ、ABRについてお話ししたいと思います。



**デイケアセンター**

**いつまでも外出できる毎日を**



座る・立ち上がる・立つなどの日常生活の動きを維持したり、安全に歩くためには、筋力増強とバランス力をあげることが大切です。デイケアセンターでは、リハビリの専門職である作業療法士（OT）のもとトレーニングをしています。持久力を蓄えることで、元気に外出できる身体づくりをしています。ゴムやおもりを使ったり、自宅でもできる体操を取り入れたり「パワーリハビリテーション機器」「バランス運動機器」なども使って、効率よく筋力アップもはかっています。



トレーニングでいきいき元気!

**「運動機能評価」風景**

3カ月に1回「運動機能評価」をおこない、トレーニングの成果を確認。手の伸びを測定したり、安全に歩いてコーンで折り返すなど、歩行タイムを計ったりします。できなかったことができたり、タイムが伸びたりと、楽しみながら励みにしてもらいます。



**地域密着インタビュー!!**  
**「第二京都回生病院」紹介の巻**

**患者さんを中心に地域に根ざした医療と介護を提供**

第二京都回生病院  
 院長 福井 博 先生 (平成14年1月院長就任)  
 今回は、乙訓地域の北側に位置する高台の第二京都回生病院をお訪ねしました。長年、病院を見てこられた院長。病院の特色や今後の方向性を語っていただきました。



**院長は病院開設直後に勤務されたとお伺いましたが**  
 院長：昭和56年9月に来ました。病院が開設25年ですからそのうち22年は勤めています。(笑)入院に特化した病院という開設でしたので、立地的に「療養に絶好の環境」と自負できる場所ですね。「大文字送り火」は4山見えますので、近隣の方々に駐車場を解放しています。

**第二回生病院の今後を、2011年介護療養病床廃止の動きも含めてお聞かせ下さい**

院長：介護療養型老健への移行、回復期リハビリ病棟などを視野に入れ、施行までに十分考えていきたいと思えます。立地的に周囲を大きな急性期病院に囲まれていますので、当院は亜急性期とリハビリを中心とした慢性期の医療を担っていこうと考えています。病病・病診連携の充実により、結果的にはリハビリが中心となってきます。幸い、すぐそばに96床の「ケアセンター回生」もあり、訪問リハビリ・訪問看護を主体にリハビリを充実させ、今後は在宅支援を中心にしていきたい。また、高齢者が主体になると外科疾患、内科疾患



医療法人 回生会  
 第二京都回生病院  
 向日市物集女町中海道92-12  
 TEL (075) 934-6881 <http://www.kaiseikai.or.jp>



患などの合併症が関わるため、いわゆる介護リハビリだけでなく、リハビリを中心に医療とのトータルケアを目指します。

**特色をお聞かせください**

院長：診療科ごとに病棟が分かれているような縦割りではないので、機能性がありますね。患者さんを中心に皆が関わってくるといって良いと思っています。



「患者さま本位の医療と介護」を理念にしていますので、全職員が患者さんを中心に考えています。ご家族やご本人と話しながら患者さんの意向に沿ったことを「みんなが考える」という、チーム医療による協力体制ができつつあります。また、診療内科でのストレスドックなども特色ですね。今後は、高齢者を含め、痔疾患を抱える方が多いので、痔疾患にも力を入れていきたいと思えますね。

**現在の楽しみなどありましたら...**

院長：何でもやってみたいタイプですが・・・(笑)。遊びのパソコンが趣味ですね。ゲームではなく、バージョンアップするなど機械そのものを細工するのが好きです。



**聞くとところによると、パソコンに長けておられ、いつも情報が非常に早いのだとか・・・。包容力のある柔和な笑顔に、安心してお話を伺うことができました。**

**デイサービスセンター上植野**

3月27日  
**ベビーカステラパーティー**  
 ふわふわベビーカステラに大満足!  
 今日のおやつは、かわいいベビーカステラ。「作らせて」の声も出て、タコ焼き器でコロコロと楽しそう。甘〜い香りが立ち込める中、アンコやジャムをアクセントにして自分の好きな味に仕上げます。パクパクおいしそうにみんないただきました!



**デイサービスセンター滝ノ町**

3月30日  
**ボランティアさん行事**  
 子どもに戻ったみたい!  
 ボランティア団体(ブーフーウー)による楽しいお話、音楽に紙芝居、人形劇。なんだか懐かしい昔話にホッとするひとときです。知っている歌では、鳴り物片手に歌い、みなさん晴れ晴れしたお顔に!



**デイサービスセンター風車**

4月9日  
 絶好のロケーションで桜堪能!  
 今年は桜が見事!市内でお花見してきました。桜を愛でてのティータイム。天気も良く、緑の芝生と満開の桜が絵にかいたような光景でした。最後は記念撮影をして写真はお持ち帰り。今度は、ご自宅でお話の花を咲かせてください!



「ホリテックセンター」で楽しむみなさん



**ショートステイ上植野**

4月6日  
 バスでお出かけ。車窓から今年の見事な桜を堪能!  
 満開の花に皆さん、本当にうれしそうでした。

**デイサービスセンター友岡**

4月16日  
**おやつパイキング**  
 昨年も好評だったのがコレ!ふかし芋、ピザ、クラッカー、シュークリームなど盛りだくさんのおやつ。好きなものを「あれにしようか、これにしようか」迷いながら、楽しみながら選んでいきます。やっぱり、おやつ時間は笑顔がいっぱいです。

